

中間評価シート

中間評価（表紙）

高山市 歴史的風致維持向上計画(平成30年3月26日認定) 中間評価(平成30年度～令和3年度)

■ 統括シート(様式1).....	2
■ 方針別シート(様式2)	
I 歴史的建造物等の保全・活用.....	3
II 歴史的景観等の保全・活用.....	4
III 歴史と伝統を反映した人々の活動の承継.....	5
IV 観光客の増加や広域的な観光.....	6
■ 波及効果別シート(様式3)	
i 観光客及び外国人宿泊者数の増加.....	7
ii 町並みの中での伝統を反映した風習の復活.....	8
iii 歴史的建造物の修復.....	9
■ 代表的な事業の質シート(様式4)	
A 歴史的建造物活用整備事業.....	10
B 町並み歩行空間創出事業.....	11
■ 歴史的風致別シート(様式5)	
1 城下町の地割にみる歴史的風致.....	12
2 高山祭の屋台行事にみる歴史的風致.....	13
3 東山寺院群にみる歴史的風致.....	14
4 飛騨匠の技と心にみる歴史的風致.....	15
5 歴史街道と農山村集落にみる歴史的風致.....	16
■ 庁内体制シート(様式6).....	17
■ 住民評価・協議会意見シート(様式7).....	18
■ 全体の課題・対応シート(様式8).....	19

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R3年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	城下町の地割にみる歴史的風致	I, II, III	
2	高山祭の屋台行事にみる歴史的風致	III	
3	東山寺院群にみる歴史的風致	IV	
4	飛騨匠の技と心にみる歴史的風致	III, IV	
5	歴史街道と農山村集落にみる歴史的風致	II, III, IV	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	歴史的建造物等の保存・活用		
II	歴史的景観等の保全・活用		
III	歴史と伝統を反映した人々の活動の継承		
IV	観光客の増加や広域的な観光		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	観光客及び外国人宿泊者数の増加		
ii	町並みの中での伝統を反映した風習の復活		
iii	歴史的建造物の修復		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	歴史的建造物活用整備事業	歴史的風致維持向上施設	
B	町並み歩行空間創出事業	歴史的風致維持向上施設	

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R3年
方針	I 歴史的建造物等の保全・活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

市の歴史的風致を構成している建造物については、所有者等による努力や、修理への助成等により保存を図ってきたが、居住者の減少や高齢化の進行により維持管理が困難となる町家等が今後さらに増加することが予想されるほか、老朽化対策等への所有者負担も増している。

伝統的建造物群保存地区の拡大や文化財への指定・登録を推進し、歴史的建造物等の修理・修景や耐震化に対して支援することにより、適切な保存を促進するとともに、所有者による維持管理が困難な建造物については、官民連携も含む様々な手法により保存・活用を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	歴史的建造物活用整備事業	2件の建造物を取得・整備	あり	H30～R3
2	歴史的町並保存事業	47件の建造物を修理・修景	あり	H30～R3
3	景観重要建造物の指定	15件→16件	あり	H30～R3
4	景観重要建造物等修景事業	34件の建造物を修景	あり	H30～R3
5	伝統構法木造建築物耐震化事業	耐震診断補助7件、耐震改修補助6件	あり	H30～R3

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

下二之町大新町伝統的建造物群保存地区内などに存し、長らく空き家となっていた2軒の町家について、取得、改修し、地域の活動拠点等として新たな活用を図ることとした。

重要伝統的建造物群保存地区内の建造物の計画的な修理・修景、防災対策を実施し、建造物の保存や町並みの景観保全を図った。

令和2年度に、大正末期の建築とされる洋風建築「旧須田歯科医院」を新たに景観重要建造物に指定し、令和3年度には国の有形文化財に登録された。

さらに、景観重要建造物等修景事業、伝統構法木造建築物耐震化事業により建物改修等に対する助成を行うことで、所有者の負担を軽減し、伝統的な町家や古民家の修景や耐震化を図った。



重要伝統的建造物群保存地区 R2.11
で修理を行った建造物



景観重要建造物に指定した R3.1
「旧須田歯科医院」

④ 自己評価

歴史的建造物の活用整備や、景観重要建造物の指定、助成制度を活用した建築物の修理・修景等により、地域の個性ある景観づくりの核となる建造物の保全と継承が図られた。歴史的建造物を活用した若者等活動事務所「村半」の整備により、市内外の若者等が高山の歴史文化に触れながら、様々な活動ができる環境を創出することができた。

⑤ 今後の対応

町家や古民家等で、歴史的に価値のあるものやランドマークとなっているものについては、官民連携を含む様々な手法により、引き続き保存・活用を図る。伝統的建造物群保存地区の拡大や、景観重要建造物の指定により、町並み景観や歴史的建造物の保存を図るとともに、景観保存に対する地域住民の意識の向上に継続して取り組む。

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R3年
方針	Ⅱ 歴史的景観等の保全・活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

旧城下町では景観町並保存会等の地域活動への支援、建築物修景等への助成、周遊ルート整備、無電柱化事業等により町並みの保存と魅力向上を図ってきたが、無電柱化が未整備の地域での整備推進や、町並みと不調和な建築物等の早期改修が求められている。また、良好な景観を持つ農山村集落では、居住者の減少等による景観の悪化が課題となっている。

歴史的な町並みやアクセス道路の無電柱化により歴史的景観の再生を図るとともに、景観計画との連携により、魅力ある町並み景観の創出や農山村景観の保全を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	無電柱化等整備事業	延長350mを無電柱化整備中	あり	H30～R3
2	町並み景観保全事業	生け垣補助18件、板塀補助82件、看板補助67件	あり	H30～R3
3	景観計画との連携	路外駐車場の景観形成基準の新設	あり	R1
4				
5				

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

高山駅方面から三町伝統的建造物群保存地区や飛騨高山まちの博物館へつながる市道上一之町花里線において、伝統的な町並み景観の再生などを行うため、景観を阻害している電線等を地中化するとともに、景観に配慮した道路整備を行っている。令和2年度には、新型コロナウイルス感染症の影響により、地元説明会が開催できない中、戸別訪問により事業への理解と協力を求め、令和3年度に工事着手した。

また、民間事業者が行う景観に配慮した看板の設置や、景観計画に適合しない看板の撤去、生け垣や板塀等の設置に対し助成を行い、高山にふさわしい町並み景観の保全を図った。

連続的な町並みや景観を阻害する可能性のある路外駐車場に対する景観形成基準を、令和元年度に景観計画に位置付けた。



無電柱化整備後イメージ



景観形成事業（塀等設置） R2.10

④ 自己評価

助成制度については、広報紙やホームページ、施工業者への説明など、継続的に周知に努めてきたところ、制度の活用者も増え、町並み景観の向上に大きく貢献するなど、景観計画を中心とした枠組みの中で、市民や事業者との連携により良好な景観形成を図ることができた。

⑤ 今後の対応

市道上一之町花里線の無電柱化により、良好な景観の創出を図る。景観計画との連携により、民間建造物の修景等について支援を行うとともに、農山村景観を保全するための仕組みづくりに取り組む。

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R3年
方針	Ⅲ 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

高山祭をはじめとする祭礼行事や伝承芸能、住民による町並み保存や文化財の保護などの活動は、地域住民のつながりや一体感の醸成とともに地域に息づいている。また、飛騨匠を発祥とする建築技術や木工品等の伝統工芸も継承されてきたが、居住者の減少や少子高齢化の進展により、地域の歴史的風致を支えてきた活動の継続が困難となっており、大きな課題である。後継者育成支援や郷土の歴史文化の語り部の育成を行うとともに、担い手を確保するための新たな仕組みを構築し、各種団体や学校・地域との協働による歴史と伝統の継承を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	屋台保存事業	屋台10台の修理、屋台蔵3棟の修理	あり	H30～R3
2	伝承芸能保存事業	20団体に継続的に補助金を交付	あり	H30～R3
3	郷土の歴史・文化の語り部育成事業	語り部養成講座を8回開催	あり	H30～R3
4	伝統行事担い手支援事業	関係団体との協議、アンケート調査	あり	H30～R3
5	文化遺産・地域資源活用調査事業	祭屋台保存・復刻調査、料亭洲さき建造物調査	あり	H30～R2

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

高山祭屋台及び屋台蔵の修理を実施し、将来への屋台の保存・継承及び防災・防犯機能の回復を行った。また、各保存団体の活動に助成するとともに、令和2年度からは祭屋台の修理技術者の後継者育成事業に対する新たな助成制度を開始した。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い伝統行事が例年通り実施できない中で、関係団体へアンケート調査を行い、実態の把握に努めた。

また、市民やボランティアガイド、観光業者等を対象に、高山の歴史と文化について学ぶ語り部養成講座を開催し、語り部の育成と資質の向上を図った。

祭屋台の保存・復刻調査と料亭洲さき建造物調査について、これまでの調査結果をまとめ、令和2年度に報告書を刊行した。



高山祭屋台の修理(大国台) R2.3



高山・祭屋台保存技術協同組合 R1.12
が参加した研修会

④ 自己評価

屋台・屋台蔵の修理や、伝承芸能の保存団体等の活動に対して助成を行ったことにより、伝統行事の継承に寄与し地域の誇りの醸成に貢献した。

各文化遺産等の調査について、調査成果を広く発信することにより、その歴史的・文化的価値の再認識につながった。

⑤ 今後の対応

居住者の減少や少子高齢化に伴う後継者不足は引き続き大きな課題である。今後も祭礼行事や伝承芸能、伝統技術の後継者育成に対する支援を行うことにより、将来への継承を図るとともに、伝統行事の担い手を確保するための効果的な対応策を検討する。

各文化遺産等の調査の結果について、説明会等により地元と共有を図るとともに、文化財の指定を含めた保存の方策を検討する。

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R3年
方針	IV観光客の増加や広域的な観光	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

外国人旅行者を含め観光客が増加する中、文化財等を巡る周遊ルートの整備等により、まちなかの回遊性が向上しているが、一部の地域に観光客が集中する状況が続いているため、市域全体での周遊性の向上が課題である。また、外国人旅行者に歴史文化の魅力をいかに伝えるかが課題となっている。道路の美装化や新たな歩行動線の確保、交通体系の見直しによる良好な歩行空間の創出により、市街地及び市域全体での回遊性・周遊性の向上を図る。また、外国人旅行者に対し、地域の歴史文化の成り立ちや魅力を伝えることができる通訳ガイドの育成確保を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	町並み歩行空間創出事業	宮川朝市通り修景整備331.3mほか市道修景、人道橋の新設	あり	H30～R3
2	スポット整備事業	4箇所を整備	あり	H30～R3
3	城山公園等整備事業	東山遊歩道、城山公園の案内板19箇所を整備	あり	H30～R3
4	日本遺産活用整備事業	説明看板27箇所整備、飛騨匠フォーラム2回開催	なし	H30～R3
5	まちの博物館外国語対応事業	多言語ボランティアの会13回開催	なし	H30～R3

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

旧城下町の市道において景観配慮型の側溝整備や舗装整備により、良好な歩行空間を創出した。また、宮川朝市通りがある宮川右岸と、本町通り商店街のある宮川左岸とを結ぶ歩行ルートとなる人道橋（行神橋）を整備した。さらに、東山遊歩道等がある散策スポットに、休憩スペースや多目的トイレのある憩いの場（大雄寺スポット）を整備し、歩行空間の魅力と利便性、周遊性の向上を図った。

語り部養成講座等へのボランティアガイドや地域通訳案内士の参加により、外国人へのガイドを行う際に必要な高山の歴史文化についての知識や手法について習得することができ、資質の向上に寄与した。日本遺産の活用のため、祭屋台等の説明看板を整備するとともに、高山城VRや日本遺産スタンプラリー、屋台曳行動画などデジタルコンテンツを制作し、地域の魅力発信に努めた。また、飛騨匠フォーラムの開催を通じて、市民や観光客に対する歴史文化の普及啓発を図った。



大雄寺スポット整備 R2.10



屋台説明看板の整備 R3.1

④ 自己評価

道路の美装化や新たな歩行動線の確保、散策スポットへの休憩所の設置等といった、まちなかでの歩行空間の整備などにより、回遊性・周遊性の向上を図ることができた。

日本遺産に関する最新技術を用いたデジタルコンテンツの整備や、多言語ガイドの人材育成により、地域の歴史文化の普及啓発を図ることができた。

⑤ 今後の対応

快適に観光を楽しむための環境整備を行うとともに、様々な誘客活動において、日本遺産をはじめとした本市固有の歴史文化の魅力を国内外にPRし、日本語を母国語としない観光客に対しても、地域の歴史文化の成り立ちや魅力を伝えることができる多言語ガイドの育成確保を図る。

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R3年
効果	i 観光客及び外国人宿泊者数の増加		

① 効果の概要

外国人観光客数が令和元年に過去最高値を更新

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	中心市街地活性化基本計画	あり	H27～R1
2	高山市海外戦略	なし	R2～R6
3			

多言語観光パンフレット・ホームページ等やフェイスブックをはじめとするSNSの活用などによる情報発信の充実、トップセールスや海外旅行博への出展、外国人観光客向け公衆無線LANサービスの提供や案内表示の多言語化、通訳ガイドの育成・確保、昇龍道や北陸・飛騨・信州3つ星街道等の広域的な連携による周遊ルートの形成など、海外からの誘客促進や受入体制の充実を図った。

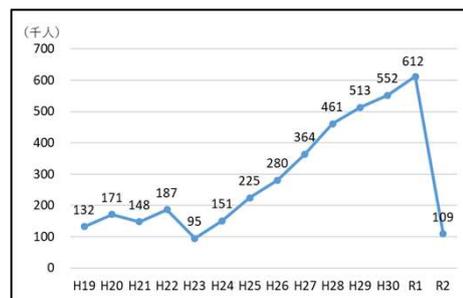
③ 効果発現の経緯と成果

飛騨高山観光公式サイトや多言語パンフレットなどの作成を行うとともに、地域固有の歴史文化の情報発信、案内看板等の多言語化、消費税免税制度活用の促進等に取り組んでいる。ホームページや散策マップは12言語での情報発信を行っている。

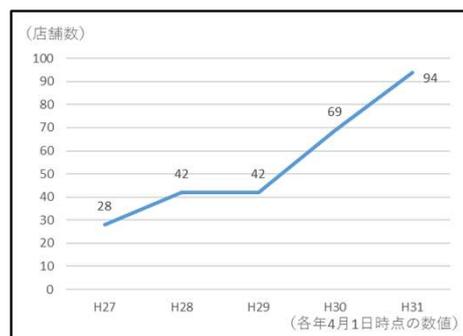
また、海外での積極的なトップセールスや海外旅行博への参加、中心市街地における公衆無線LANサービスの提供、環境の整備等による受入体制の充実などにより、外国人観光客が年々増加し、令和元年には過去最高の約61万人（宿泊者ベース）となった。

なお、令和2年、令和3年については、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大による影響で、本市を訪れる外国人観光客数は激減している。

また、外国人観光客の動向の把握・分析・活用を行っている。



外国人観光客数の推移



消費税免税店数の推移

④ 自己評価

積極的な誘客活動や受入体制の充実により、外国人観光客が大幅に増加した。外国人観光客の来訪による地域経済への波及効果を高めるため、外国人観光客の周辺地域への訪問を促す取り組みが引き続き必要である。

⑤ 今後の対応

様々な誘客活動を続ける中で、本市固有の歴史文化の魅力を海外にPRするとともに、外国人旅行者に対し、地域の歴史文化の成り立ちや魅力を伝えることができる通訳ガイドの育成確保を図る。

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R3年																
効果	ii 町並みの中での伝統を反映した風習の復活																		
<p>① 効果の概要</p> <p>「当番飾り」を復活させることにより、重要伝統的建造物群保存地区に精神性をもたらした。</p>																			
<p>② 関連する取り組み・計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>他の計画・制度</th> <th>連携の位置づけ</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高山市下二之町大新町伝統的建造物群保存地区保存計画</td> <td>あり</td> <td>H16～</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>伝統的な風習であり、戦時中から途絶えていた「当番飾り」が、屋台組（鳩峯車組）の人々の協力によって約70年ぶりに復活した。</p>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1	高山市下二之町大新町伝統的建造物群保存地区保存計画	あり	H16～	2				3			
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																
1	高山市下二之町大新町伝統的建造物群保存地区保存計画	あり	H16～																
2																			
3																			
<p>③ 効果発現の経緯と成果</p> <p>当番飾りは、高山祭の屋台組が祭り当日に組内の中心的場所の家の一画に氏神を奉り、お供えや飾り付けをする伝統的な風習で、現在では行う組が少なくなっている。</p> <p>下二之町大新町伝統的建造物群保存地区にある市の若者等活動事務所「村半」の改修内容や活用方法について地域住民と市が意見交換を行う中で、戦時中から途絶えていた当番飾りを復活させる話が持ち上がった。</p> <p>これをきっかけに、屋台組（鳩峯車組）の人々の協力によって、平成30年の秋の高山祭に当番飾りが設置され、約70年ぶりの復活となり、重要伝統的建造物群保存地区に精神性をもたらした。</p>																			
																			
																			
		<p>約70年ぶりに復活 H30.10 した当番飾り</p>																	
<p>④ 自己評価</p> <p>伝統的建造物の保存・活用事業をきっかけに、伝統的な風習についても話し合いが行われ、当番飾りが復活された。建造物等のハード整備だけで完結せず、相乗効果により無形の伝統行事も復活し、地域の歴史文化を見直す端緒となった。</p>																			
<p>⑤ 今後の対応</p> <p>引き続き、良好な町並み景観の維持向上を図るとともに、無形の伝統行事を守り育てる取り組みを行う。</p>																			

市町村名	高山市	評価対象年度	R1～R2年
効果	iii 歴史的建造物の修復		

① 効果の概要

異なる制度の連携により市指定文化財を適切に修理することで地域資源の整備を図った。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	高山市文化財保護費補助金	あり	S52～
2	高山市耐震化促進計画	あり	R2～R7
3			

奥飛騨温泉郷平湯にある築300年を経過した市指定文化財「旧豊坂家住宅」は、老朽化が進んでいたため、改修を検討していた。改修に先立ち、令和元年度に耐震診断を行い、令和2年度に全体の改修とあわせて耐震改修工事を行った。高山市伝統構法木造建築物耐震化マニュアル講習会を受講した地元の設計士が、文化財保護と耐震改修の双方の助成制度を併用して設計監理を担う初の取り組みとなり、これにより地域資源の整備を図ることができた。

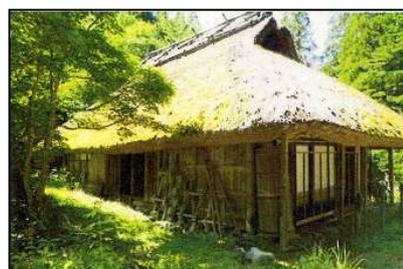
③ 効果発現の経緯と成果

指定文化財については、適切な保存が図られるよう計画的に修理を実施すること、及び文化財指定の建造物のほとんどが木造であり、火災や地震に対し脆弱であるため、火災報知設備の設置や耐震対策を行うこととしている。

一方、市耐震改修促進計画には、市伝統構法木造建築物耐震化マニュアルを活用した助成制度の推進による伝統構法木造建築物の維持・保存が位置付けられている。

伝統的な構法で建築され、創建当時の姿を色濃く残す「旧豊坂家住宅」は、奥飛騨温泉郷平湯の地元町内会が所有する市指定文化財建造物であるが、全体的な歪みや不陸による老朽化が進み、危険な状態にあった。

そこで、市伝統構法木造建築物耐震化マニュアル講習会を受講した地元の設計士が、令和元年度に耐震診断を行い、令和2年度に建造物全体の修理と耐震改修工事の設計監理を担った。これに、文化財保護の助成制度と伝統構法木造建築物耐震化の助成制度を併用し、奥飛騨温泉郷平湯の貴重な地域資源の整備を円滑に図ることができた。



改修前

H31.4



改修後

R2.8

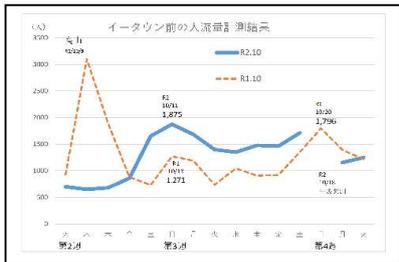
④ 自己評価

異なる制度による助成を併用することで所有者の負担を軽減し、適切な保存が図られるよう修理を行うとともに、防災対策を行い、地域資源の整備を図った。市の文化財部局と建築部局が密に連携・協力することで、手続きや情報共有などの面で所有者・設計士・施工者への負担を減少させることができた。

⑤ 今後の対応

指定文化財の適切な保存については、所有者の負担を軽減しながら、計画的に修理や防災対策を進め、地域資源として整備を図る取り組みを継続する。

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R3年
取り組み	A 歴史的建造物活用整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>下二之町大新町伝統的建造物群保存地区の伝統的建造物に特定されている築140年を超える大規模な町家（旧村田邸）を、歴史的建造物の保存・活用を図るため、取得し、修理を行い、若者等による地域活性化を進めるための活動拠点として整備した。整備にあたっては、歴史的価値の保存を最優先とし、従前のままの姿をできる限り留めることとした。</p> <p>平成29年度から整備を開始し、令和2年3月末に改修工事を終えて完成、同年7月より若者等活動事務所「村半（むらはん）」として供用を開始した。</p> <p>この村半を舞台として、次代を担う若者がまちなかに集まり、様々な活動を通じて地域への誇りと愛着を育むとともに、歴史ある建物の保存と重要伝統的建造物群保存地区及び周辺の美しい町並み景観の維持を図ることにより、地域全体の活性化や持続可能なまちづくりにつなげることを目的としている。</p>		 <p style="text-align: right;">（整備前）</p>  <p style="text-align: right;">（整備後）R2.7 若者等活動事務所「村半」の整備</p>	
<p>② 自己評価</p> <p>下二之町大新町伝統的建造物群保存地区において空き家となっていた伝統的建造物を改修整備したことにより、伝統的建造物の保存・継承及び町並み景観の向上が図られた。</p> <p>また、歴史的価値の高い伝統建築を若者等の活動拠点として整備したことにより、高校生等が主体となった様々な活動が展開されるとともに、市内外の若者をはじめ市民や観光客に飛騨高山の歴史文化の魅力を発信することができた。</p>			
外部有識者名	工学院大学 教授 後藤治 先生		
外部評価実施日	令和3年11月1日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>高山市の重点区域の中心を形成する伝統的建造物群保存地区のうち、三町保存地区は観光客であふれているが、下二之町大新町地区は人の往来は少ない。下二之町大新町地区側に人を誘導して、市内の回遊性を高め、来訪者の滞在時間を増やしてもらうことが課題ではあるが、商業が町の生業ではないので、三町と同じ形にすることは避けたい。本事業は、そうした問題への対応としての役割もあったものと思慮される。事業の結果、施設の稼働率は高く、それまでは見ることのできなかった高校生（中学生を含む）の活動や集まりが往来に見えるようになっており、町における新しい生活風景を形成しつつある。こうした賑わいは、来訪者の往来への誘客を促すはずで、問題の解決に非常に効果的な事業となっているものとして評価できる。視点を変えると、本事業は、歴史的建造物の保存活用と空き家再生を兼ねた事業としても評価できるもので、今後、規模を縮小した形で類似の事業を民間が行うことも視野に入れ、本事業の課題や成果を見直し、支援制度（条例等の法整備を含む）の拡充を含む事業の展開を検討していただきたい。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>生活者・訪問者にとって楽しみと居心地の良さをもたらす市内の回遊性の確保と、回遊のポイントとなり新たな人の流れを生む拠点となる歴史的建造物の保存活用、整備について、引き続き取り組む。歴史的建造物を活用する際に必要となる支援制度や条例等の整備は今後の検討課題とする。</p>			

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R3年
取り組み	B 町並み歩行空間創出事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>宮川朝市通りがある宮川右岸と、本町通り商店街のある宮川左岸とを結ぶ新たな歩行ルートを確認し、まちなかにおける観光客等の回遊性を高めることを目的とした人道橋「行神橋」は、平成24年度から平成30年度まで7年間に渡り、宮川人道橋推進会議において議論を重ね、令和元年より工事を開始し、令和2年7月に供用を開始した。</p> <p>学識経験者や市民等によるデザイン会議を行った結果、木質の装飾を施し、美しい夜間景観の創出にも配慮するなど、新たな景観スポットとなるようなデザインにすることで歩行空間の演出を図った。</p> <p>また、宮川朝市通りについては、景観配慮型の舗装や側溝の整備、外灯や案内板の改修などにより美装化を行い、人道橋と一体となる歩行空間整備を行った。</p>		 <p>人道橋「行神橋」 R2.7</p>  <p>宮川朝市通り R2.7</p>	
<p>② 自己評価</p> <p>人道橋「行神橋」の新設により、新たな歩行ルートとまちの魅力が創出された。</p> <p>令和2年は、秋の高山祭の屋台行事が中止となったにもかかわらず、宮川左岸（本町3丁目商店街）の10月の人流量計測では、歩行者数が前年を上回る結果が得られた。</p> <p>これにより、人道橋を経由して、宮川右岸側から左岸側へ歩行者が回遊していることが推測され、人道橋の整備効果が発現している。</p>		 <p>本町3丁目商店街での人流量計測結果</p>	
外部有識者名	工学院大学 教授 後藤治 先生		
外部評価実施日	令和3年11月1日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>宮川朝市は、高山市の重点区域の歴史的風致において、風致を形成する主要行事のひとつである。本事業は、朝市が行われる場所の歴史的風致の向上に寄与する事業であり、市の歴史まちづくりの根幹をなす事業のひとつと位置付けられよう。市では、宮川右岸側にある旧市街地と、左岸側にある新市街地の両者の特性をいかした歴史的風致の維持向上を行い、市内での回遊性を高め、来街者の滞在時間の増加とそれにとまなう市街地の活性化等を目指している。本事業における人道橋「行神橋」の架橋は、その目的を果たす上で非常に有効な事業と位置付けられる。新設された橋や周辺街路のデザインが、過度に歴史性に依存しておらず、目立ち過ぎない抑制のきいたものとなっている点も好感が持てる。今後は、朝市の仮屋の景観への寄与や新市街地の歴史的資源の活性化へと事業を発展していただきたい。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>人道橋「行神橋」は、古い町並・朝市と商店街とをつなぐ架け橋として機能し、古い町並・朝市から商店街へ、商店街から古い町並・朝市へ、という人の流れが生まれた。宮川左岸において今後供用される予定の歴史的建造物の活用も含め、より良好な景観をもつ空間の創出へと発展させる取り組みを継続する。</p>			

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R3年
歴史的風致	1 城下町の地割にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的建造物等の保存・活用 II 歴史的景観等の保全・活用 III 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承		

① 歴史的風致の概要

旧城下町には、城下町を形成して以来、ほぼ変わらない地割とともに、伝統的な様式を残す町家が保存され、その一部は重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。町並みが現在まで良好な状態で保存されている背景には、そこに高山祭の氏子区域が重なっており、屋台を護持する屋台組が、自分たちの町を守るために独自のコミュニティを維持し続けてきたこと、さらに、上町・下町という二つの領域が核となり、お互いに意識しながら文化的伝統を継承してきたことがある。これにより、高山祭や秋葉信仰、飾り物の文化など地域固有の伝統文化が継承されており、歴史的な町並みと一体となって城下町の歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

下二之町大新町伝統的建造物群保存地区内に存し、城下町でも最大級の建築規模を有する建築物ながら、長らく空き家になっていた旧「村田邸」を、平成29年度から改修を行い、若者等活動事務所「村半」として運用を開始した。

このほか、町全体の景観向上を図るため、景観重要建造物の外観を維持するために必要な修理や、市街地景観保存区域内の建造物における一定の基準を満たす建築行為に対して助成を行った。

また、重要伝統的建造物群保存地区内の建造物の計画的な修理・修景を実施するとともに、防火帯としての土蔵の整備も行い、防火対策を図った。

令和2年度から、地域の伝統的な建築技法の活用を促進し、技術の継承と地場産業の振興、良好な景観の保全を推進するため、伝統的な技法を用いた建造物等の整備に対して新たな助成制度を設けた。



R2.4



重要伝統的建造物群保存地区保存事業により修理が行われた伝統的建造物 R2.11

③ 自己評価

地域の歴史や景観に配慮した建物改修により、伝統的建造物や景観重要建造物、市街地景観保存区域建造物等の保存・活用や町並み景観の向上が図られた。一方、高齢化や居住者の減少による空き家の増加、三町伝統的建造物群保存地区内への来訪者の集中、新型コロナウイルス感染症の影響による伝統行事の継承が課題となっている。

④ 今後の対応

景観計画や美しい景観と潤いのあるまちづくり条例、伝統的建造物群保存地区保存計画に基づく手続きを経て行われる建造物の修理・修景への助成により所有者の負担を軽減し、引き続き歴史的・文化的価値のある建造物の保全を図る。

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R3年
歴史的風致	2 高山祭の屋台行事にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承		

① 歴史的風致の概要

高山祭は、屋台が国重要有形民俗文化財に、屋台行事が国重要無形民俗文化財に指定され、平成28年にはユネスコ無形文化遺産に登録された。絢爛豪華な屋台とともに、山王祭の日枝神社、八幡祭の桜山八幡宮、屋台蔵という祭礼に関連した建造物とその周辺の伝統的な町並みがあり、また、屋台組をはじめとする人々の活動や屋台修理の技術の継承、祭礼と融和する城山風致地区・北山風致地区の自然的環境がある。

高山祭の場である歴史的な町並みと自然的環境、そこで行われる屋台組を基盤とする人々の伝統的な活動が一体となって、市を代表する歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

高山祭屋台の保存修理事業を行い、将来への屋台の継承に寄与した。令和元年度には、大国台が3年にも及ぶ半世紀ぶりの大修理を終えた。また、屋台の防災施設である屋台蔵の修理を実施し、防災・防犯の機能を回復させた。

また、祭屋台を保存する屋台組の活動に対して継続的に助成を行うとともに、修理技術者の後継者育成を行っている事業所と研修者に対して令和2年度より新たに助成制度を設けて、屋台の保存や修理技術の継承に寄与した。

さらに、高山屋台保存会や高山・祭屋台保存技術協同組合に対して助成を行うなど活動を支援した。

屋台組においては、少子高齢化や居住者の減少により、屋台行事の運営に支障をきたしている組もあるため、担い手支援策について提案を行ったが、地域の伝統を重んじる傾向もあり、具体的な取り組みには至っていない。



R2.3



宝珠台の組み立て

R3.3

③ 自己評価

祭礼に関連する文化財等の保存修理や調査を行うことにより、歴史的風致の維持に努めた。



屋台組との協議

R1.6

④ 今後の対応

ユネスコ無形文化遺産や日本遺産の制度を活用しながら、国内外に地域の魅力を発信していくとともに、市民の誇りを高め、祭礼行事の担い手や屋台の修理技術者の確保並びに後継者育成に取り組んでいく。

屋台組の担い手支援については、今後も関係者との意見交換を継続し、より効果的な対応策を検討する。

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R3年
歴史的風致	3 東山寺院群にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	IV 観光客の増加や広域的な観光		

① 歴史的風致の概要

金森統治時代に形成された寺院群は、様々な時代の流れの中でも寺院群としての構造を保ち続けており、現在は貴重な文化財となっている。面的に広がる寺院群の背後には、東山風致地区、北山風致地区の緑が広がり、歴史的建造物や史跡と豊かな自然環境、人々の営みから生み出される鐘の音や線香の香りが、この地の独特の精神的環境を醸し出し、それらが一体となり、固有の伝統と文化を形成している。

寺院群の歴史的建造物を中心に形成される信仰空間と、人々の信仰心によって脈々と受け継がれる伝統的な年中行事が深く一体となって、東山寺院群の歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

東山寺院群には、南北に連なる寺院や神社、高山ゆかりの人物の墓などを巡る「東山遊歩道」が整備されており、特に欧米からの観光客に人気となっている。

この東山遊歩道や、城山風致地区内にある城山公園への来訪者をさらに増やすことでまちの回遊性を高めるため、案内板等の整備を行った。案内板の整備においては、景観に配慮したデザインとしたほか、外国人に対応するため多言語表示（5か国語を基本）とした。

寺院や神社の建造物の多くが日本遺産構成文化財となっており、新しい説明看板を整備するとともに、スマートフォン上で建造物の360°のパノラマ画像を閲覧できるデジタルコンテンツを制作した。令和3年度からWEBブラウザ上で参加できる日本遺産スタンプラリーを実施しており、普及啓発を図った。

また、東山遊歩道には、休憩スペースや多目的トイレのある周辺景観に配慮した憩いの場（大雄寺スポット）を整備し、歩行空間の魅力と利便性、回遊性の向上を図った。



整備前盤面

H31.3



整備後盤面(拡大)



東山遊歩道の案内板整備

③ 自己評価

遊歩道等に、景観に配慮した休憩スペースやトイレ、案内板の整備を行い、東山寺院群の歴史的風致の向上を図ることができた。また、日本遺産を活用した説明看板の整備やデジタルコンテンツの提供により、市民や観光客への歴史文化の魅力発信に努めた。



日本遺産360°パノラマビュー

④ 今後の対応

東山寺院群は、城下町高山の歴史的風致を形成する重要な要素であり、継続的な取り組みにより、知名度は上がってきた。遊歩道を活用した催し等の実施のほか、回遊性と魅力の向上に引き続き取り組む。また、当該地域は令和2年度より大学に委託して町並み保存対策調査を行っており、文化財的な価値を把握した上で、伝統的建造物群保存地区の拡大に向けた取り組みを進める。

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R3年
歴史的風致	4 飛騨匠の技と心にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	Ⅲ 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承 Ⅳ 観光客の増加や広域的な観光		

① 歴史的風致の概要

豊かな森林資源に恵まれた飛騨の地で、良材を活用した木工技術が発達し、奈良時代には「飛騨工」制度が生まれ、歴史の中で一位一刀彫や飛騨春慶などの伝統工芸が誕生した。その高度な技が結集した祭屋台は、今も職人たちの技により修理されながら維持されている。市内には、中世の社寺建築や近世・近代の大工一門の建築物、名工による一位一刀彫、飛騨春慶など、関連する遺産が数多く残されており、様々な場所で飛騨匠の技と心に触れることができる。

飛騨匠の技と心は高山の文化の基礎として、ものづくりの職人たちのみならず、高山市民すべての誇りであり、高山を代表する歴史的風致である。

② 維持向上の経緯と成果

平成30年度と令和元年度に開催した飛騨匠フォーラムにおいて、飛騨匠に関連した講演と実演イベントを実施した。職人による鉋削りや樽へぎの実演には外国人観光客や子どもも多く参加し、講演では日本遺産構成文化財の年輪年代測定の調査結果を中心に報告が行われた。

飛騨匠に関連する日本遺産構成文化財の看板については、既存の看板よりも見やすく、わかりやすいものとなるよう更新を行った。更新においては、最新の研究成果や情報を盛り込み解説内容も新たなものとした。看板の多くにはQRコードを設置して、スマートフォン上で構成文化財の360°パノラマ画像や動画などを閲覧できるようにした。

また、日本遺産を広く発信するために最新の技術を用いたデジタルコンテンツを制作した。高山城VRや日本遺産スタンプラリーは、新鮮さも相まって子どもや若者などの層にも高山の歴史文化を知ってもらう契機となった。



高山城VR



日本遺産スタンプラリー
周知チラシ

③ 自己評価

各事業を通じ、市民や観光客に対する飛騨匠の伝統技術について普及啓発を図ることができた。

技術者の高齢化等により、後継者不足が課題となっている。



飛騨匠フォーラムでの
実演の様子 R1.12

④ 今後の対応

日本遺産のストーリーを語る上で欠かせない有形や無形の様々な文化財群を、総合的に整備・活用し、国内外に地域の魅力を発信するとともに、地域の宝に対する市民の誇りを高め、伝統工芸や伝統建築の技術者確保並びに後継者育成に取り組む。

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R3年
歴史的風致	5 歴史街道と農山村集落にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	II 歴史的景観等の保全・活用 III 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承 IV 観光客の増加や広域的な観光		

① 歴史的風致の概要

急峻な地形の奥に広がる盆地に発達した高山城下町の文化は、街道を通じて各方面より運ばれてきた文化が融合し醸成された。この城下町文化は街道を通じて周辺の農山村集落に浸透・伝播し、それぞれの農山村集落では独自の文化が開花した。

農山村集落では、城下町の町家の影響が見られる建物や伝統的な景観が大切に維持されているとともに、各々の集落で祭礼行事などの人々の営みが継承されている。また、城下町を中心に発展した食文化の中には全市的に広まったものもあり、それらが一体となって歴史街道沿いの農山村集落の歴史的風致、さらに広義には全市的な歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

地域の神社などで奉納される伝承芸能の保存団体に対して継続的な活動助成を行った。

地域の祭り等の担い手不足が顕在化している状況下において、さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により伝統行事の多くが中止や縮小される中、旧町村地域や文化財未指定のものまで対象を広げて、幅広く関係団体へアンケート調査を実施し、実態の把握に努めた。

また、旧町村地域にも現存する祭屋台は、これまで詳細な調査が行われてこなかったが、平成30年度と令和元年度には、これら屋台の三次元測量調査などを行い、今後の保存・活用への一助となる資料を作成した。

さらに、各伝統行事の記録映像を制作し、後継者育成やPRに広く活用できるように整備を行った。市の公式YouTubeチャンネルでそのダイジェスト版をアップロードして、その価値や魅力を内外へ発信した。

「文化財めぐりウォークラリー」に新コースとして、「越中街道コース」を追加した。全8コースの中で、街道に関係するコースは3コースあり、気軽に文化財への理解を深めつつ健康づくりにも活用してもらう取り組みを行っている。



伝承芸能の記録映像撮影 H31.4
(飛騨東照宮おかめ舞獅子舞)



三次元測量調査を行った屋台



ウォークラリー8コース

③ 自己評価

伝統行事の継承に努め、文化財に対する理解を深めるための取り組みを行うとともに、新たに歴史的風致に興味関心を持つための取り組みを開始し、コロナ禍においても地域の誇りの醸成に貢献することができた。

④ 今後の対応

伝統行事の担い手不足に対し、現段階では即効性のある解決方法がないため、各保存団体との協議を続けながら、活動に対する支援や、有効性のある対応策を検討する。

農山村景観の保全に対する新たな支援制度や景観重点区域の指定等について検討を進める。

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R3年
------	-----	--------	---------

① 庁内組織の体制・変化

計画の推進にあたっては、事務局である都市計画課と文化財課が連携し、随時、担当者同士の打合せを行い、相談・調整を図った。

また、都市計画課と文化財課とは、景観町並保存連合会の事務局としても協力し、専門部会（町並保存部会、広報部会、子ども伝承部会）との連携により、町並み保存活動により一体感を増すことができた。

各事業の実施等にあたっては、建築住宅課、商工労働部等とも調整を行った。

市全体としては、令和3年度に、観光課・海外戦略課・ブランド戦略課を飛騨高山プロモーション戦略部として組織の再編を行い、外国人観光客の誘致や受入体制の充実の面での強化を図った。

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度、令和3年度の高山市歴史的風致維持向上計画協議会については、書面会議として開催したが、参考となる様々な意見が提出された。



歴史まちづくりの体制

R3.10



高山市歴史的風致維持向上
計画協議会の様子

H31.4

② 庁内の意見・評価

中間評価の作成にあたり、各課から下記の意見等があった。

- ・事業の実施にあたっては、関係課で相談や調整を行い、横断的に連携を図りながら進めることができた。

- ・計画に記載された事業の実施により、景観や人の流れの変化を感じ取ることができ、また、人流量計測結果やまちづくりに関するアンケート結果からは、歴史的風致の維持・向上にとどまらず、魅力的で持続可能なまちづくりに寄与していることが実感できる。

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R3年
------	-----	--------	---------

① 住民意見

市では毎年、18歳以上の市民を対象に、まちづくりに関するアンケート調査を行っている。

調査期間：令和3年9月18日から10月20日

発送数：3,000人、回収数1,396人（回収率46.5%）

市の取組みに対する満足度についての設問のうち、「景観（町並み景観や農山村景観など地域の美しい景観が保たれている）」についての満足度は、平成28年度から令和2年度にかけて一貫して上昇し、特に、令和2年度には80%を超えた。

令和3年度の結果を順位でみると、「景観」が4位（前年度3位）、「歴史文化（文化財や伝統芸能が保存・承継され、郷土の歴史文化に誇りを持っている）」が8位（前年度6位）となった。令和2年度と比べると、「景観」「歴史文化」のいずれの順位もやや下がったが、上位に上がってきた項目は「消防（消防・救急救助体制が整っている）」（前年度4位）や「情報（テレビ、ラジオ、インターネットなどを快適に視聴・利用できる環境が整っている）」（前年度11位）といったライフラインに関するものであり、新型コロナウイルス感染症の影響が感じられる。

これらを考慮すると、景観や歴史文化に対する市民の満足度は、依然として高い水準にあると言える。



② 協議会におけるコメント

高山市歴史的風致維持向上計画協議会

令和4年3月18日～令和4年4月5日 書面会議により開催

コメントは下記の通り。

・伝統的建造物群保存地区等、景観が良好な通りについては、指定以降、45年程経ち、夜間、人が住んでいない家も多いため、今後とも安全な方法で守るべき。特に防火設備として、自火報設備の次の設備の早期決定を望む。

・屋根や外観塗装については、修景事業で復元等を行っているが、30年以上経っているので、再度見直しが必要と考える。

・市街地の夜が暗いように感じる。中心市街地（本町地区以外）については、あたたかい町の風景が欲しいので、通りだけでなく、樹木や建物のライトアップに対する検討、整備を望む。

・歴史的建造物活用整備事業により、明治時代の町家を再整備し、若者が集う拠点として活性化させた。整備する中で、広い居宅の各部屋、土蔵ごとに多様性を活かし、地元の各種技術を取り入れ、特色を持たせることで多くの若者が建物にも魅了され、それぞれの用途で活用している。まさにハードとソフトが一体となり、相乗効果を発揮している施設であり、今後の歴史的建造物の活用についても手本となる施設だと評価する。

市町村名	高山市	評価対象年度	H30～R3年
<p>① 全体の課題</p> <p>・少子高齢化や居住者の減少に伴う伝統行事等の後継者・担い手の不足は、有形・無形を問わず、伝統の継承という面から、大きな課題である。祭等の伝統行事だけでなく、高齢化や継承者の不在によって地域のランドマークとなっている歴史的建造物の維持管理が困難になると、地域の住民に親しまれ心の拠り所となる「顔」であり、訪問者を楽しませる景観的なシンボルが消えることにもなる。</p> <p>・これに加え、令和2年からは新型コロナウイルス感染症が大きな影響を及ぼしている。これまでのような自由な行動が制限される中、連綿と受け継いできた伝統的な祭や行事は言うに及ばず、地域住民の話し合いの場、子どもたちの学びの場といった、「人が集う場」がなくなり、あるいは縮小されることで、伝統を継承していく機会が急速に失われ、断絶する危機に面している。</p>			
<p>② 今後の対応</p> <p>・祭礼行事や伝承芸能、伝統技術の後継者育成に対する支援を行い、将来への継承を図るとともに、伝統行事の担い手を確保するための効果的な対応策を検討する。</p> <p>・町家や古民家等の建造物で、歴史的に価値のあるものやランドマークとなっているものについては、官民連携を含む様々な手法により、保存・活用を図る。また、歴史的建造物の再整備により新たな地域活動が生まれ、広がり始めていることを踏まえ、施設の効果的な運用に引き続き取り組む。</p> <p>・防火対策について、現状の把握と体制の強化に努める。</p> <p>・建造物の修理・修景への助成による所有者負担の軽減等により歴史的・文化的価値のある建造物の保全を図ると共に、必要に応じて制度の見直しを検討する。</p> <p>・無電柱化事業については、夜間景観も含めた良好な景観の創出に取り組むと共に、安全で快適な環境整備の観点からも、引き続き推進する。</p> <p>・農山村景観の保全に対する制度の在り方や景観重点区域の指定等について検討を進める。</p>			